

第2学年 音楽科

1、学習のねらい及び使用教材

- ・音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。
- ・多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じとり、基礎的な表現の技能を身に付け、表現の技能をのばし、創意工夫して表現する能力を高める。
- ・多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

教科書：中学生の音楽2・3上、中学生の器楽（1年時からの）

2、評価の観点及び方法

音楽への 関心・意欲・態度	音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽に対する関心を高め、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	・日頃の授業態度 ・提出物 ・試験の一部の項目の点数から総体的に評価する。
音楽表現の 創意工夫	音楽をつくっている要素を感じ、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を理解しながら、ふさわしい音楽表現を工夫し、どのように表すかについて自分の思いや意図をもっている。	・質問に対して、積極的に発言しようとしている。 ・試験の一部の項目の点数から総体的に評価する。
音楽表現の 技能	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能をのばし、歌唱、器楽、創作で表している。	・リコーダーの実技試験及び試験の一部の項目の点数から評価する。
鑑賞の能力	音楽をつくっている要素を感じ、それらの働きを出す特質や雰囲気を感じながら、解釈したり価値を考えたりして、多様な音楽に対する理解を深め、味わって聴いている。	・鑑賞教材のときに、感想など書かせ、判断材料として評価する。

3、学習計画

各単元と主な内容		評価の具体例
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱「夢の世界を」 ・歌唱「翼をください」 ・歌唱「夏の思い出」 ・鑑賞「ア・カペラ」 「交響曲ハ短調」 ・アルトリコーダー 「ラヴァーズコンチェルト」 	<p>【 歌唱 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱活動に主体的に取り組もうとしている ・曲の構成や曲想の変化を感じ取って歌おう。 ・曲の構成と音の重なり方を理解して表現を工夫している。 ・言葉と旋律の関係を理解して表現を工夫している。 <p>【 鑑賞 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムや旋律、強弱などの変化と曲想との関わりに関心を持ち、主体的に取り組もうとしている。 <p>【 器楽 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソプラノリコーダーとの運指の違いに慣れる。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱「花の季節」 ・歌唱「サンタルチア」 ・鑑賞「フーガト短調」 ・鑑賞「日本の郷土芸能」 ・アルトリコーダー 「涙そうそう」「大きな古時計」 	<p>【 歌唱 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲のまとまりやハーモニーの変化を感じ取って合唱できる。 ・詩や曲の雰囲気合った声で表現を工夫しようとしている。 <p>【 鑑賞 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律や強弱、伴奏の形の変化と曲想との関わりを感じ取って聴いている。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱「心のなかにきらめいて」「時の旅人」 ・鑑賞「世界の諸民族の音楽」「アイダ」 ・ 	<p>【 歌唱 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容や曲想を生かして歌っている。 <p>【 器楽 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箏の奏法の違いによる音色の特徴を味わいながら弾く。

4、学習方法についてのアドバイス

学校	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書（2冊）、筆記用具は必ず持ってくる。 ・歌唱のときは、腹式呼吸を実践しているが、正しい姿勢でお腹から声を出すように意識する。 ・鑑賞教材のときは、感想を必ず書く課題をするので、自分が感じたことをまとめられるようにする。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から、たくさんのジャンルの音楽を聴くようにする。 ・j-popだけでなく、クラシックやジャズ、ラテン音楽などたくさんの音楽を聴いてみる機会を持つ。